

常 馨 文 藝

余の好める句

星 影 生

それならば何れも知らぬ卑
夫野人が卒然として句を作
るものがあつて、それを名
吟だと推稱してゐるのは何
うかとの質問が出る、そん
な句を推稱する人を先不
見の好い、必ずそれは例へ
學識のある人であるにもせ
よ俳句の何たるかを解せぬ
人である、早い話が紅葉山
人は能く俳句を作つた、あ
れだけ立派な小説家でも俳
句は頗る拙であつて、彼に
採るべき句はないではない
か、馬琴は歳時記を編みで
も彼は俳人ではない、俳句
作法を著しても其人の句に
採るべきものがないのあり
探るべきものは俳句として
して學んだ人でなければ歌
目である

現今の俳壇は所謂聯合混
成軍である、種々な俳人國
の人が聚合して銘々其主張
を歌つてゐる状態である、
然しそんな面倒臭い事は「
猿ならば猿にして置け閑古
鳥で好い、余は平易清新に
して底の深い句以つて俳句
として尊重してゐる今余の
好める句を二三擧げて見や
う」
月光は霧の如くうごく
眼界遮るものなき廣漠
たる野に立つて、中空に懸
れる大輪の明鏡を仰ぐとき
あるかなさかの霧の如く月
光が動く、何んたる快感で
あらう何たる壯観であらう
此境に臻る神秘を掴み得る
には恐らく達成した俳人で
なくては獲られぬのである
（續）

鳥で好い、余は平易清新に
して底の深い句以つて俳句
として尊重してゐる今余の
好める句を二三擧げて見や
う」
月光は霧の如くうごく
眼界遮るものなき廣漠
たる野に立つて、中空に懸
れる大輪の明鏡を仰ぐとき
あるかなさかの霧の如く月
光が動く、何んたる快感で
あらう何たる壯観であらう
此境に臻る神秘を掴み得る
には恐らく達成した俳人で
なくては獲られぬのである
（續）

價定 一部金貳錢 月極
ニ限リ一ヶ月卅錢 料告廣

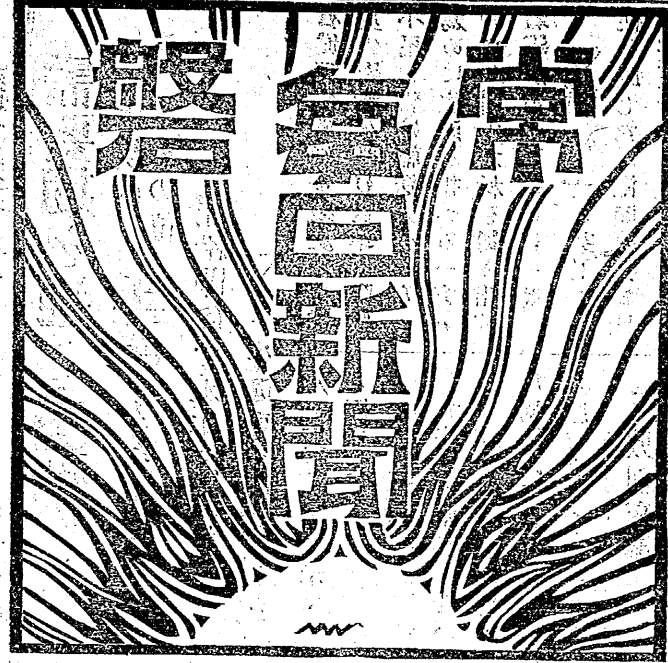
五號十三字詰
一行五十錢

日刊休 曜 大祭
祝日の翌日

所刷印 福島縣石城郡平町
田町十六番地
磐城新聞社印刷部

編輯人 川崎文治
印刷人

所行發 福島縣石城郡平町
字長橋町卅五番地
常磐毎日新聞社



刊夕日十二月一十

余の一日 (二)

社長 川崎文治

故に新聞を生み出すべき
土地其ものが問題である、
恵まれたる土に培はるゝ種
子でなければ真により強き
芽生ひを見る事は出来ない
地方其ものが進展するに従
つて其處に基礎を置く新聞
は堅實なる發達の道程をた
ざる事となる、然れ共又一
方新聞は地方開發に資すべ
き力がなければならぬ、
若し其力が欠除して居たと
すれば夫れは社會の公器と
しての使命を果し得ない、

即ち地方開發上密接不離の
關係を保つべき公器として
の資格がない、斯かる新聞
紙があつたとしたら當然社
會の淘汰を受けて絶滅すべ
き運命に逢着する事であら
うと信ずる
余は本紙をして將來益々
多端なる平地方の發展に貢
献し得る力の言論機關とし
て天與の使命を果さしめん
が爲め毎日の努力を怠らな
いのである、故に紙面甚だ
小なりと雖も具備すべき内
容の充實を圖る上に一社一
人主義を標榜する自分の背
後には常に間断なく讀者諸
君の監視の眼が輝きつゝあ
る

全く現在の自分にとつて
は如何にせば讀者諸君に忠
實なる余たらしめ得べきか
、以外には念頭何
ものもない真に力行精進の一
日一日を送迎して居るので
ある
（續）



祝 刊 發

井上貞次郎
井上茂作

高 西 洋 御 料 理 仕 出 し

松 島 名 産

カキ 貝 御料理
カキ フライ
カキ めし
品 キ キ ナ ベ
々 な

一の井

電話一六七番

國際寫真情報

世界の復興

近日中着本の筈
本號は曩に多大の好評を
博したる關東大震災の災
姉妹篇として世界歴史上
最も著名なる大地震の災
害實況寫真とその物語及
び帝都復興の有様を掲載
せるものにして而も同號
は震災勿卒の際と異り大
に日頃の面目を發揮した
るものなれば之亦類似の
書報を壓倒して絶大の好
評を博すべく前號遅延の
御申譯として著本早々迅
速に配本可致候
價一部 賣金一圓二
十錢年極一部一圓
新規御申込の方は
磐城代理部
電話一五九番
一五六四番

讀書家新刊雜誌回讀

即時御加入あれ

時代の潮流に棹さし豊富なる智識を吸收せんとする人は
御希望の新刊雜誌を加入者の御家庭に配達し七日目毎に
一冊宛を交換し一ヶ月中に五冊を閲覽に供す但冊数を減
じ交換日を延ばす事を得
方法
一ヶ月金壹圓以上の一冊壹圓以上の雜誌或は倍大號等發行
の月に限り多少追徴する事ある可し又月の中途加入者は
日割或は冊數割とす
申込
一御加入される方は希望雜誌五冊を指定し住所氏名明瞭
にハガキへ御記入の上申込次第直ちに配本す
一ト月遅れの諸雜誌……平町字長橋町三五
一御希望に依り五六……川崎巡回文庫
割引にて分譲すべし

丸登株式会社

川添房二郎

Table with exchange rates for various banks and locations. Includes entries for 磐城銀行, 平銀行, 磐越銀行, etc., with rates like 五〇〇, 五七〇, etc.

需要期を迎へた本郡の

木炭は 生産するるか？

配給關係で本年は減少

石城郡に於ける製炭業は震災の影響を受け貨車の配給不足を告げ輸送充分でない爲めに生産を却る一方、ラック用の木材を切り出す者等があつた爲めに一時

委員に附托

早速委員会に

昨報戸数割審議の平町會は本日午前九時から開會左記委員附托となつた爲め午後一時から委員會に移つた

蠶種冷蔵庫が竣成

約十萬の蠶種を貯蔵の設備

石城、双葉兩郡の蠶種製造業者は従來蠶種冷蔵庫を有しなかつた爲め不使少くなかつたが今回好間水電との協約成り同社四倉製氷部内に

鹿島農會の

献穀米品評

石城郡鹿島村農會にては來る廿八日午前十時より郷社鹿島神社にて新嘗祭を執行する爲め當日各戸から一升

磐洲翁病む

一切 會謝絶

磐洲翁は本縣縣議選を應援し歸京後風邪を罹り小石川區大塚坂下町の自邸で静養中の

祝賀や點檢

江名消防協談

石城郡江名町消防幹部會は十八日午後一時から同町役場に於て開會、來月一日に

債券や金を

横領して費消

平町字舊城跡居住無職前科二犯瀧川寛(三三)住所不定石城郡錦村大字大倉字大島

不平受付

投書歡迎

危険な吸殻 私には南町に住んで居る者です、夜中頃に附近の酌婦が私宅の路次で客と立話をするものと見

眞面性 問題

現代の世の中で言葉通り赤裸々に女性を觀察し得るものは醫學者と美術家と南洋の野蠻人である。もう一種

平町人事

- ▲出生
 - △長橋町 當時内郷村大字 御臺境 佐藤清五郎二男
 - △材木町 目黒修二男正雄
 - △四丁目 淺野英男長女敬子
 - △新川町 當時内郷村大字 白水字川平 葉谷留吉三男健二
- ◇婚姻
 - △研町 大谷鑛治(四六)伊達郡石戸村 小手森(四二)
- 死亡
 - △八幡小路 鶴沼英子(六六)
 - △番匠町 葉原(六五)
 - △九品寺前 大山國定(一九)

再調査

記入洩れ多く

石城郡内に於ける震災避難民の調査は既記の如く去る十五日夜十二時の現在にて

常磐片々

平町の戸数割審議、委員附託と決す、吉田禮次郎氏の獅子吼が期待さる

町會の選舉で

區長決定

本日(古鍛冶町)區長代理木澤選舉の結果左の如く決定

段位昇格

平町の二氏

常松(紺屋町)區長會川卯三郎、同代理柳下元吉(田町)區長若本重雄、同代理